

付録 5

天国と地獄

コーラン全体を通じた天国と地獄の描写は**寓意的（比喩的）**なものである。コーランは、それらの描写が一般的な文脈ではなく独立した記述として現れる際、必ずそのことを私たちに伝えている。第2章 24-26 節、13 章 35 節、47 章 15 節を参照。これらの節では「マサル（Mathal＝寓話、比喩）」という言葉が使われている。言語学的には、これらの節から「マサル」という言葉を取り除いても文章として成立しますが、あえて置かれているのは、天国と地獄の描写があくまで比喩だからである。

天国と地獄が実際にはどのようなものであるかは、私たちの理解を遥かに超えている。それゆえ、比喩が必要なのである。

例えば、チョコレートを一度も食べたことがない人に、その味をどう説明できるだろうか？ 比喩を使わざるを得ない。その人は、実際にチョコレートを味わうまで、本当の味を知ることにはできない。チョコレートの味を説明するためにどんな比喩を使っても、本物に近いものにはなり得ないのである。

天国はすでに存在している。なぜなら、アダムとイブは無垢であった頃、そこに置かれていたからである。(2:35)。第 55 章から、2 つの「高い天国」——人間用とジン用——と、2 つの「低い天国」——人間用とジン用——があることを学ぶ（詳細は付録 11 を参照）。

地獄はまだ創造されていない。それは審判の日に創造される（69:17 および 89:23）。さらなる詳細は付録 11 に記されている。

高い天国 vs 低い天国

「高い天国」と「低い天国」の間には深い違いがある。比喩的に言えば、高い天国の水は自由に流れているが（55:50）、低い天国の水は汲み上げなければならない（55:66）。

比喩的に言えば、高い天国にはあらゆる種類の果物があるが（55:52）、低い天国には限られた種類の果物しかない（55:68）。

比喩的に言えば、高い天国では清らかな配偶者たちが進んでパートナーのもとに合流するが（55:56）、低い天国の住人は自ら配偶者を迎えに行かなければならない（55:72）。

それでも、低い天国でさえ、地獄を免れてそこにたどり着けた幸運な人々にとっては、信じられないほど素晴らしい報奨である（3:185）。天国に行けることは大きな勝利なのです。**40 歳の誕生日を迎える前にこの世を去り、魂を十分に発達させられなかった人々は、低い天国へと向**

かう（46:15、付録 11 および 32 を参照）。高い天国は、信じ、義にかなった生活を送り、魂を十分に発達させた人々のために用意されている。

「かろうじて地獄を逃れ、天国への入場を許された者は、大きな大勝利を得たのである。」

[3:185]